

# 浜田地区 カルテ

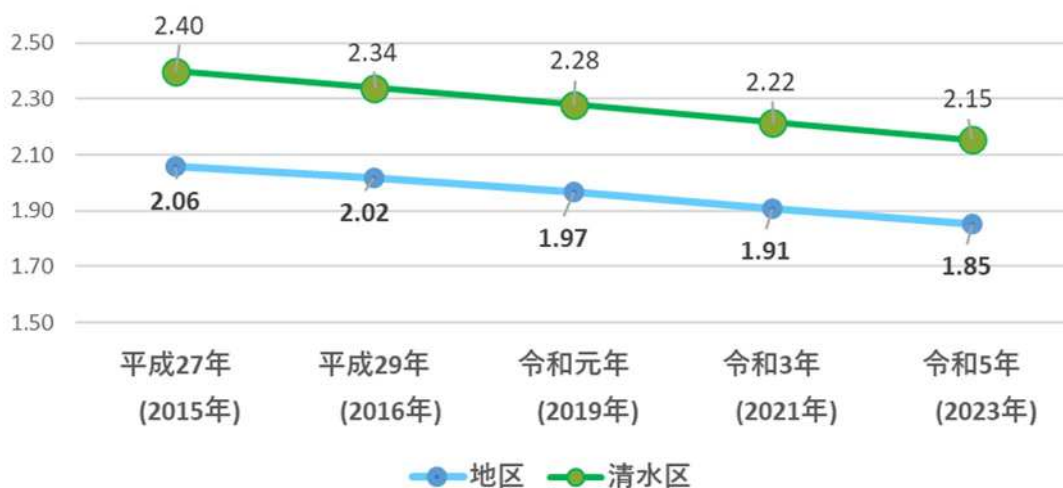
## データについて

- ・カルテは住民基本台帳と自治会加入統計を利用しています。
- ・住民基本台帳は各年の3月31日の数値、自治会加入数は各年の4月1日の数値です。
- ・町名は住民基本台帳を採用しているため、自治会名と一部異なる場合があります。

●人口・世帯数の推移



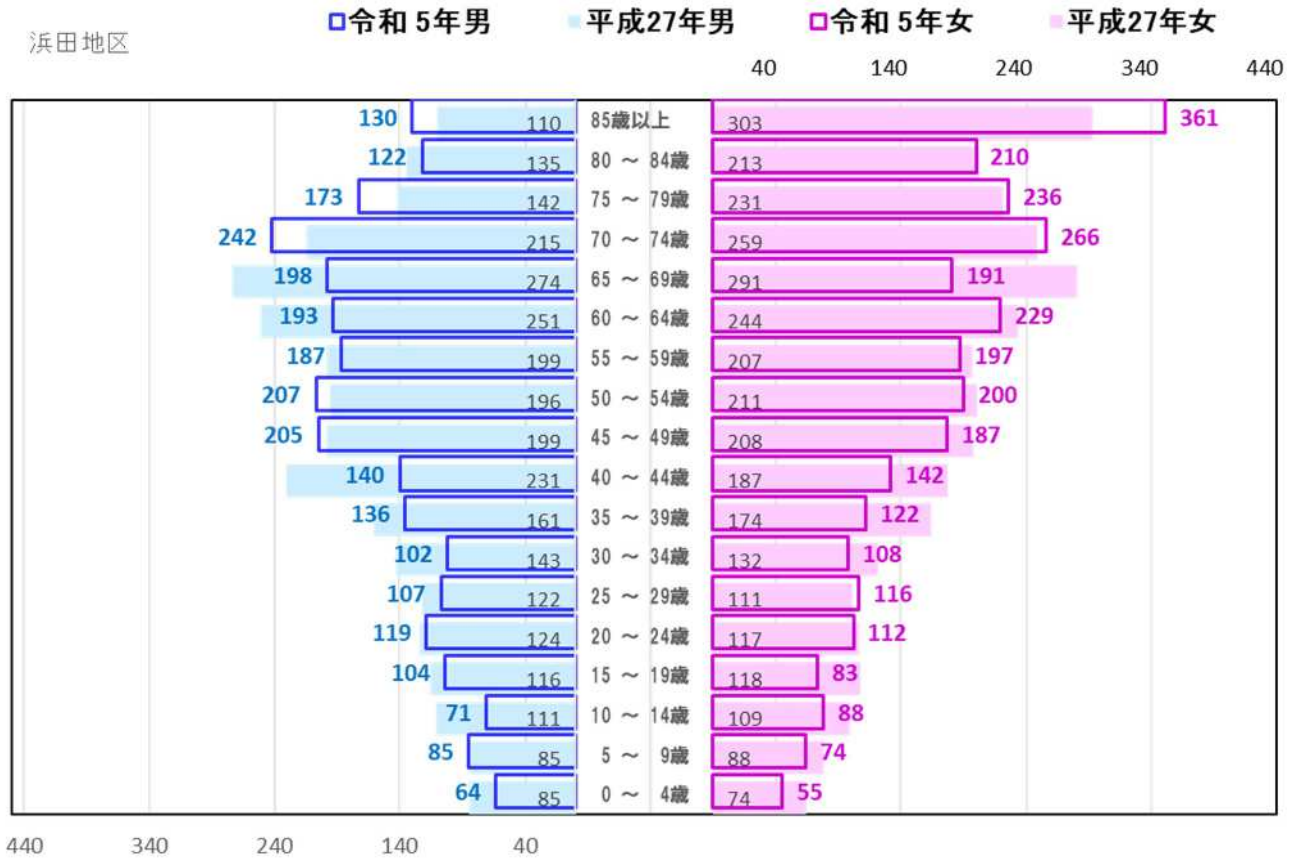
●一世帯当たりの人口推移



●65歳以上の高齢者を支える生産年齢層 (15-64歳)

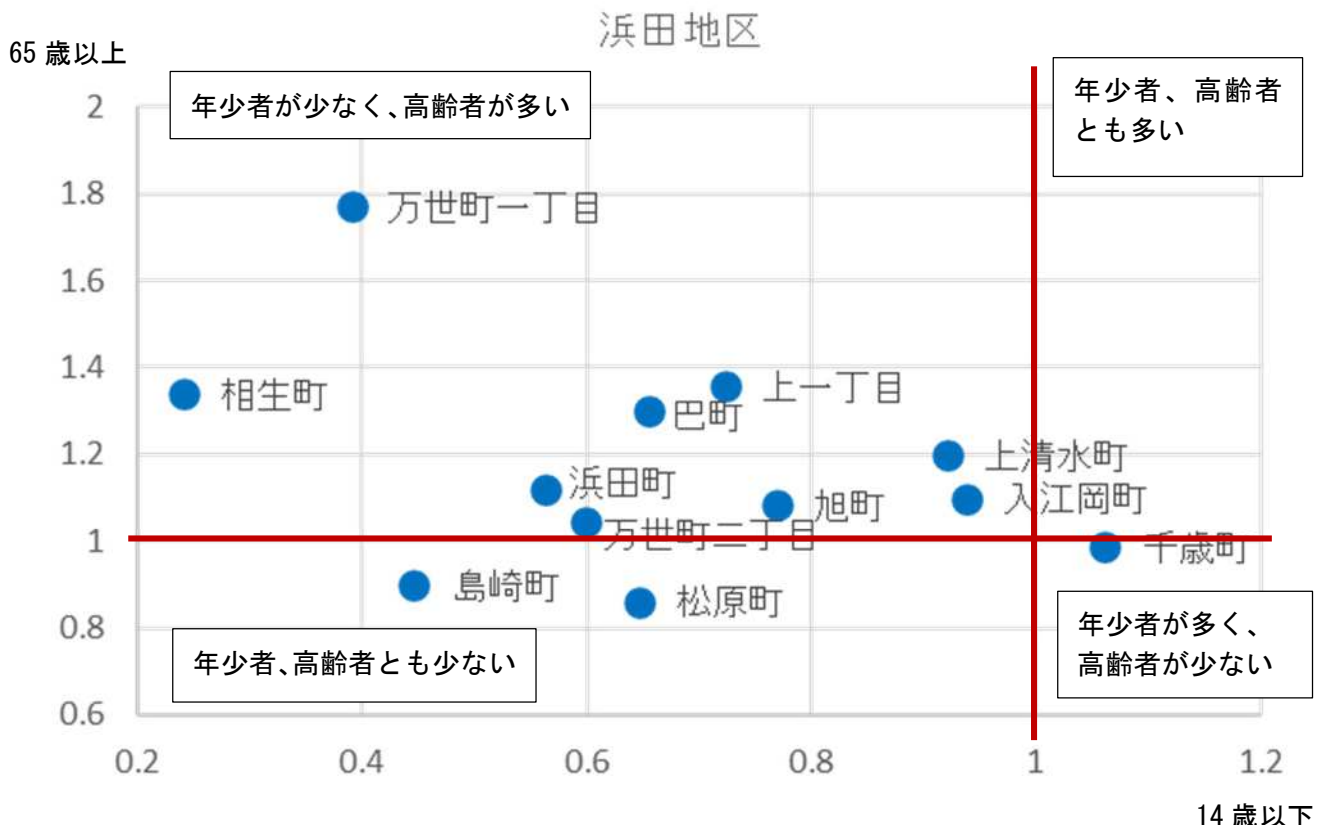
区分	平成27年 (2015年)	令和5年 (2023年)
地区	1.59人	1.41人
静岡市	2.16人	1.88人
清水区	1.98人	1.71人

●人口ピラミッド【平成27年（2015年）と令和5年（2023年）の5歳階級別男女別構成】



●町別の14歳以下と65歳以上の割合分布（清水区の平均値を1とした場合）

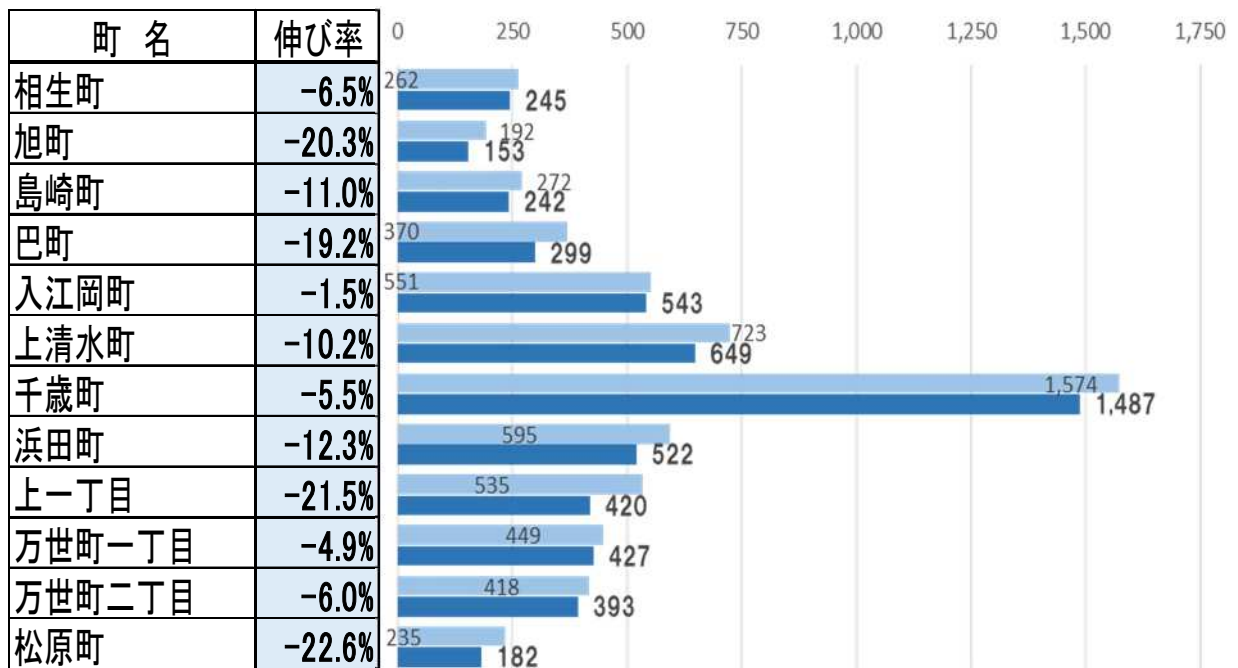
※年少者(14歳以下) 高齢者(65歳以上)



●町別の伸び率と人口推移

【平成 27 年（2015 年）と令和 5 年（2023 年）の比較】

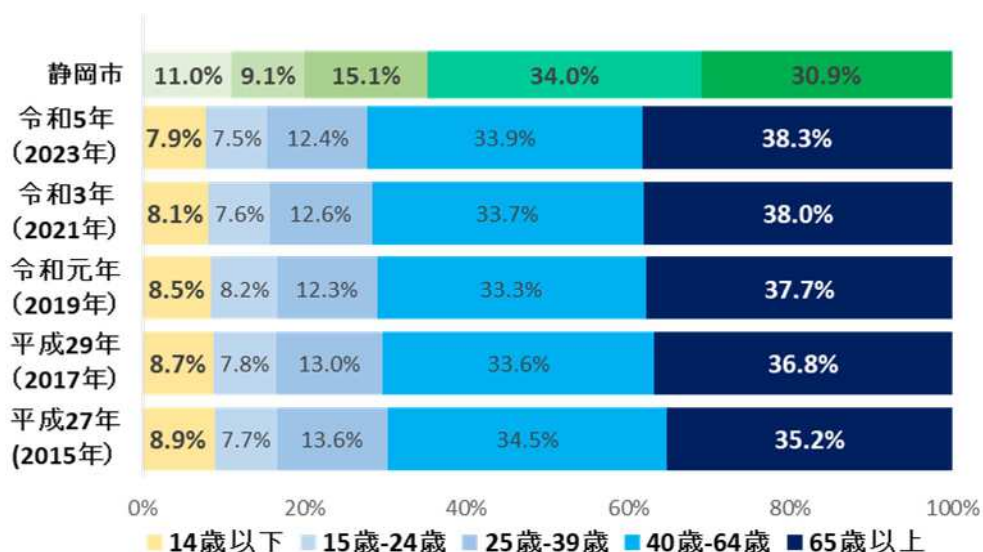
人口推移グラフ（上段平成 27 年 下段令和 5 年）



		人 口	
		平成 27 年 (2015 年)	令和 5 年 (2023 年)
浜田地区	-9.9%	6,176	5,562
静岡市	-4.6%	713,564	680,913

●町別人口区分別割合

・年齢5区分別人口割合の推移



※15-24歳は高校から社会人(大学修士課程含む) 25-39歳は社会人(大学博士課程含む)

・令和5年人口3区分別：

市の割合より

青字 14歳以下の割合が低い場合

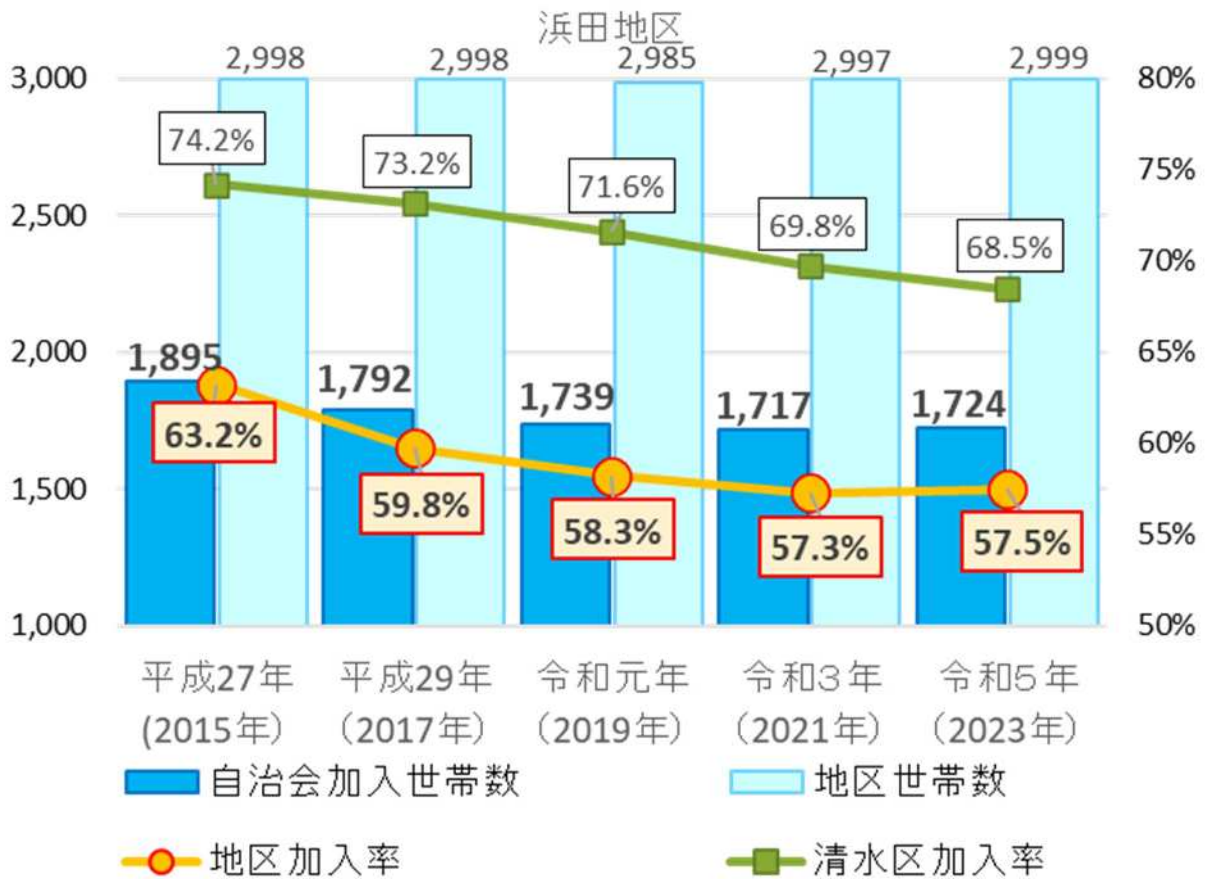
赤字 65歳以上、75歳以上の割合が高い場合

町名	令和5年階級別割合		
	14歳以下	65歳以上	そのうち75歳以上
相生町	2.4%	44.5%	33.1%
旭町	7.8%	35.9%	20.9%
島崎町	4.5%	29.8%	18.6%
巴町	6.7%	43.1%	27.4%
入江岡町	9.6%	36.5%	20.1%
上清水町	9.4%	39.8%	22.5%
千歳町	10.8%	32.7%	14.7%
浜田町	5.7%	37.2%	21.5%
上一丁目	7.4%	45.0%	26.0%
万世町一丁目	4.0%	58.8%	47.8%
万世町二丁目	6.1%	34.6%	18.3%
松原町	6.6%	28.6%	11.5%
浜田地区	7.9%	38.3%	22.2%
清水区	10.2%	33.2%	18.7%
静岡市	11.0%	30.9%	17.2%

●自治会加入状況

令和5年

加入率	地 区	57.5%	加入世帯数	1,724 世帯
	清水区	68.5%	住民基本台帳世帯数	2,999 世帯



浜田地区コメント

- ・人口は減少傾向を示し、世帯数は停滞しています。世帯人数が減少していることから、単身世帯や小家族化が進んでいるようです。
- ・人口減少地区は町内全てに見られ、少子高齢化の状態となっています。
- ・令和5年の65歳以上を1人支える生産年齢(14歳から65歳)が市の1.9人より少ない1.4人で減少傾向にあり、若い世代が地区や自治会活動等への負担が増えることが見込まれます。
- ・さらに、自治会の加入率は市の値69%より低い58%ですが、年々減少傾向が見られます。40歳から64歳の自治会活動等で中心的に活躍を期待される層の減少も見られます。





# 浜田地区

## 地名のゆかり

地区の名称としての「浜田」はごく新しく、浜田小学校が創立（昭和29年）されたのを契機に生まれたものです。

はるか昔、清水の海は有度山ろく近くまで広く入り込んでいたと言われます。清水平野の北部に4列、南部に3列ある浜堤は、この海が次第に退行して陸地化する段階でできたものです。浜田地区西部にも、入江1丁目～入江岡～北矢部と続く、標高7～9mの浜堤があって、古くから人が住み、岡清水と呼ばれていました。この浜堤の東側に、明治時代まで南北に帯状の田が広がっていて、通称浜田と呼ばれていたそうです。

このように、昔、岡清水や入江の人たちが、海水が引いて湿地帯となった土地を開拓して作った浜田も、今は市の中心部となっています。



大正5年ごろの浜田学区

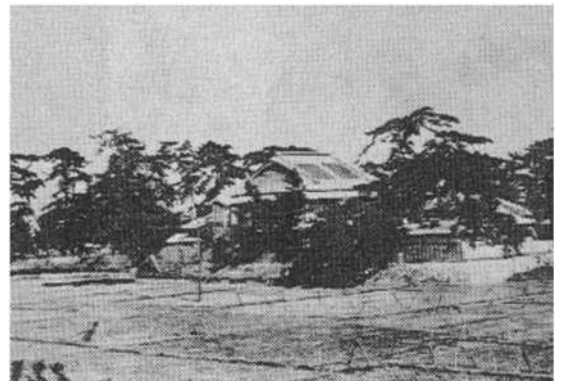
## うさぎ山

万世町の清水郵便局の南側に「うさぎ山」と呼ばれた小高い丘があました。

うさぎ山は、面積8000㎡の松の生えた原っぱで、その大部分は豊年製油の所有地だったそうですが、明治のころは別荘があったため、「別荘山」とも呼ばれていました。

ここは、まち中でただ1つの広場だったため、軍楽隊の演奏や野外映画会、青年団の軍事演習、消防団の練、大政翼賛会の演説会などが開催されました。相撲興行も2、3度開催され、双葉山、安芸の海、照国など、往年の名力士の土俵も見られました。

現在では、小さな空地すらなく、商店や住宅が密集して、さつき通りに面した繁華街の一面になっています。



大正初期のうさぎ山

## しんみち

巴町通りは、ひと昔前まで「新道(しんみち)」と呼ばれていましたので、今でもお年寄りの会話にその名が出てきます。

しんみちは、明治22年に東海道線が開通し、辻村（現在の真砂町の踏切附近）に江尻停車場が造られたため、この停車場と清水町方面との交通の便を図ろうと、巴川沿いの里道を改修した道で、明治26年に開通しました。

しかし、当時は道幅が狭く、馬車の往来にも危険なほどだったようです。また、道の両側は田んぼや桑畑ばかりで、民家は3、4軒しかなく、夜間はちょうちんを下げて歩かなければならないほど寂しい道だったということです。



昭和初期の巴町通り

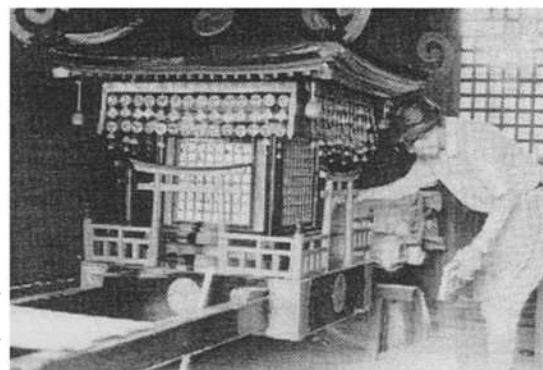


## 八雲神社

上1丁目に鎮座する八雲神社の祭神は素盞鳴命(すさのおのみこと)で、宝暦元年1751)、同所の小平という漁師が清見寺沖で木彫りの神像を拾い、巴川岸に祠を建てて、それを祭ったのが始まりと伝えられています。

その後、社は暴風雨で被害を受けたり、巴川の護岸工事のため移されたりしましたが、文久3年(1863)6月、現在地に遷座され、以来、上1丁目の氏神として、また疫除けの神として人々の信仰を集めてきました。

お祭りは明治末までは旧暦6月15日に、戦前は8月1日に行われ、荒みこしで清水8町を練り歩きました。現在は、8月上旬に港祭りの日を避けて行われています。この日は、荒みこしや子供みこしを担ぎ、踊りの輪を作って楽しんでいます。



八雲神社のみこし

## 「チャンチャン井戸」

今から800年くらい前のお話です。入江の荘の近くは海がすぐそばまでできていて砂浜になっていました。ある夜、ひどい嵐があって舟は沈み、人はみな溺れ、その中に一人の旅のお坊さんが流れ着きました。お坊さんは喉が渇き、水を探して入江の荘をさまよっているうちに気を失ってしまいました。気が付くと、お坊さんは火のパチパチと燃えている暖かな囲炉裏(いろり)のそばに寝かされていました。村の人々がお坊さんを救ってくれたのです。

入江の荘は海に近いので井戸水が悪く、飲み水にならないことを聞かされたお坊さんは、恩返しのために水を探することにしました。

毎日のように鉦(かね)をたたき、お経を唱えながら井戸を掘る場所を探して歩きました。そして、とうとう見つけたのです。

村人はお坊さんが教えてくれた場所を掘ってみました。すると、突然水が噴き出したのです。

「あっ、水だ！きれいな水だ！」

「ああ、つめたい、すごくきれい！」

「ああ、これはうまい。いい水だ」

「清水だ、清水だ」

と村人は大変喜びました。

このことがあってから、この辺りを「清水」というようになり、桜ヶ丘より北を「上清水」南を「下清水」と呼ぶようになりました。お坊さんはお経を唱えながら何処へともなく旅立って行きました。人々は井戸を掘る時、お坊さんが鉦をチャンチャンと叩いてくれたことを記念して、この井戸を「チャンチャン井戸」と呼びました。

この井戸は今も上清水の八幡様の東、浜田小学校のグラウンドのすぐ西に、土や小石で埋まって残されています。そこには説明のプレートが立っていますので、今度通ったらご覧になって下さい。



かたりベクラブ提供